

阿蘇の花に集まる蝶たち

熊本県は、九州全土で蝶類が最も多いと言われています。熊本で確認されている 117 種のうち、109 種が阿蘇に生息しています。

阿蘇の草原には豊富な野生の花が咲き誇るため、さまざまな蝶たちが集まっています。草原にある 600 種の植物や花は、特定の環境と涼しい気候に適応し、ユニークな生物多様性を作り出しています。この生物多様性は、特に阿蘇の植物を餌とする蝶の幼虫の生態系を支える上で重要な役割を果たします。

「餌植物」として知られている植物もあり、これらを中心に様々な蝶の種が生息しています。例えば、オオルリシジミ (*Shijimiaeoides divinus*) という蝶は、クララという植物を餌にしています。クララは温暖な草原で生長する植物で、ほかの植物を焼き払うための野焼き、またはほかの草を食べながらクララを避ける牛の放牧によって、クララが生き延びて、オオルリシジミの生息を支えています。オオルリシジミが生き残っているのは九州では阿蘇が唯一です。このような草原の管理方法によって生まれた生態系に、阿蘇の草原にのみ生息する他種の蝶の種が生息します。例として、アオスジアゲハ、アサギマダラ、ヘビシジミなどがあげられます。